

2020年8月19日(水)第3水曜祈祷会

ルカの福音書19:41~48

「失われる人々への涙」

■いよいよエルサレムが近づいて

- ①大勢の弟子たちは、神を賛美して喜んだ → イエスが王位に着くと期待していた
- ②イエスはエルサレムをご覧になって涙を流された → エルサレムの崩壊を知っておられた
*「エルサレム」の名は、「平和」に由来する町

■イエスはなぜ涙を流されたのか *ルカの福音書で、「イエスが…泣いた」というのはここだけ。

- ①平和に向かう道を知っていなかった
- ②神の訪れの時を知らなかった → 信仰の目が隠されていた(罪で覆われていた)
- ③神に背を向け続ける人々の姿
- ④形骸化した神殿礼拝 → 「祈りの家」ではなく、「強盗の巢」と化していた
- ⑤神殿崩壊(AD70年に成就)、2000年に渡る流浪の民に…

■宮をきよめられたイエス

- ①過越しの週の月曜日の出来事(マルコ11:11-12)
- ②イエスの宮きよめは、公生涯の最初と最後になされた(ヨハネ2:13-17)
- ③神殿税のための両替人、いけにえの家畜を売る者 → 宮に納めるもので商売する者たち
・当時、パレスチナではさまざまな国の通貨が有効だった。しかし、神殿税としては半シケル(イスラエルの貨幣)が定められていた(出エジプト30:13) → 両替の必要
・いけにえ用の動物(雄牛、子羊、やぎ、鳩のひななど)が用いられた。傷のないものでなければならぬので、宮の近くで売り買いする人が多かった → 家畜を売る者が必要
- ④商売人たちを追い出し始めた → 旧約律法の廃棄、神殿の廃棄を予表された。
毎日教えられた。父なる神の家を取り戻そうとされた。
- ⑤律法学者たちによるイエス殺害計画 → イエスのことばに熱心に耳を傾ける人々がいた
- ⑥ゼカリヤ14:21、マラキ3:1の成就

まとめ:「失われる人々への涙」

- ・「教会」とは、祈りの家であり、イエスの教えを学び、憐れみが与えられるところ(マタイ21:14)
- ・イエスは今も、平和に向かう道知らず、失われる人々のために涙を流される
- ・この時代にも、イエスのことばに熱心に耳を傾ける者たちが必ずいる(ルカ12:32)

『だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。』(ルカ18:14)